

あ た ご み ち 愛宕道

愛宕山の頂上には神仏習合の時代から愛宕権現、勝軍地蔵が祀られ、修験道の道場でした。現在も愛宕神社が鎮座して火難よけの神が祀られ、全国に約九百ある愛宕社の総本山として多くの人々の信仰を集めています。歴史的な逸話や伝説の多い愛宕神社への参道は、愛宕道として知られています。平安時代中期の僧齋然(ちょうねん)は、愛宕山を中国の五台山と見立てて比叡山に向き合う文殊信仰の聖地にしようとしました。五台山清凉寺が今回のコースの起点になっています。葬送の地・化野(あだしの)を通る参道には奥嵯峨の見所が数多く点在します。この地図では清凉寺と愛宕山の紹介を中心に愛宕道の歴史と見所を紹介します。



愛宕神社一の鳥居



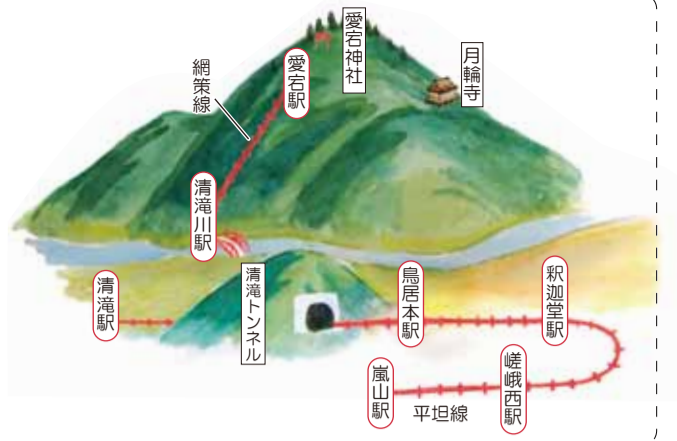
渡猿橋から清滝川(嵐山方面)を望む

きよたき 清滝

愛宕山(標高924m)の登山口です。初夏にはゲンジボタルが舞い川遊びの避暑地となり、秋は清滝川に沿う遊歩道が紅葉の名所となっており多くの人で賑わいます。かつて松尾芭蕉や与謝野晶子ら文人がここで作品を残しました。(清滝川のゲンジボタル: 国指定天然記念物)

愛宕山鉄道

1929年に愛宕神社への参詣路線として平垣線(嵐山駅~清滝駅)と鋼索線(ケーブル:清滝川駅~愛宕駅)が開業しました。それに続いて愛宕山上には遊園地やホテル、スキー場が開業し、多くの参拝客や観光客で賑わいました。その後、第二次世界大戦中に鉄材供出のため、観光施設とともに廃止されました。かつて平垣線の通っていた清滝トンネルは、交差方式の自動車道に転用され、鋼索線は路盤跡やトンネルなど遺構の一部が残っています。



山頂の本殿



本殿の鳥居



本堂

つきのわでら 月輪寺

781年に光仁天皇の勅願で愛宕山一帯が修験道場として中興された際、愛宕神社の前身・白雲寺とともに創建された愛宕五坊の一つです。(清滝から徒歩: 約1時間半)



おたぎねんぶつじ 愛宕念仏寺



東山区にある「六道珍皇寺」近くに創建された「愛宕(おたぎ)寺」が起源です。大正11年当地に移転し、昭和30年に仏師の西村公朝が住職となり、荒れ果てた境内の修復に尽力しました。住職の指導で参拝者が彫った千二百羅漢が心を和ませてくれます。

ふじわらためいさきょうの はか 藤原為家卿之墓



藤原定家の子で「続後撰和歌集」や「続古今和歌集」の編纂に携わった鎌倉時代の歌人・藤原為家の墓で、横には「定家卿墳遷葬所」の碑が建てられています。

じげんどう ちゅういんかんのん 慈眼堂(中院観音)



清凉寺西側の一帯は中院と称され、12世紀末、この地に山荘を構えた藤原定家の念持仏とされる、木造千手観音立像(市指定有形文化財)が本尊として安置されています。

あだしのねんぶつじ 化野念仏寺



811年に空海が五智山如来寺を建立し、葬送の地・化野に散在していた野ざらしの遺骸を埋葬したのが始まりです。境内に配列安祀された約8000体の石仏・石塔は、西院(さいの)の河原と呼ばれています。

ごかめやまてんのうさぎのおくろのみささぎ 後亀山天皇嵯峨小倉陵



南北朝合一を実現し晩年を小倉山の東麓に隠棲した、南朝最後の天皇(在位1383~1392)後亀山天皇の陵墓です。

ぎおうじ 祇王寺



法然の門弟・良鎮(りょうちん)が創建した往生院に因む尼寺で、平清盛の寵愛を受けた白拍子(しらびょうし)の祇王、妹の祇女、母の刀自(とじ)と後に仏前が出家のため入寺しました。苔に覆われた庭園が美しく、本堂は北垣国道の別荘を移築したものです。境内には清盛、祇王の墓と伝える五輪石塔と三重層塔があります。

にそんいん 二尊院



発遣(ほっけん)の釈迦と、来迎(らいごう)の阿彌陀の二尊(ともに重要文化財)を本尊とする天台宗の寺院です。墓地には総門を寄進した豪商・角倉了以(すみのくろりょうい)や学者・伊藤仁斎、俳優・阪東妻三郎らの墓があります。参道は「紅葉の馬場」と呼ばれ、秋には鮮やかな原色に彩られます。



京都市嵯峨鳥居本町並み保存館

「嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区」にあり、愛宕神社の門前町として栄えた鳥居本の町並みや、愛宕山鉄道の歴史をパネルと模型を使って紹介しています。



せいりょうじ さがしゃかどう 清凉寺(嵯峨釈迦堂)



源融の宝篋印塔



本堂(府指定有形文化財)

嵯峨天皇の皇子で「源氏物語」の主人公光源氏のモデルとされる、源融(みなもとのおとる)の山荘「樓霞観(せいかかん)」跡地に、895年阿弥陀堂が造営されたのがはじまりです。僧齋然(ちょうねん)が宋から持ち帰った「三國伝来の釈迦像」を安置する寺として、愛宕山の東麓に伽藍が整備され、五台山清凉寺と称されました。現在の本堂は1701年に徳川綱吉と、その母桂昌院の発願で再建されたもので、木造釈迦如来立像(国宝)が安置され、境内には源融の宝篋印塔や齋然の墓、豊臣秀頼の首塚があります。

さがだいねんぶつぎげん 嵯峨大念仏狂言



演目「愛宕詣」

壬生狂言・千本系んま堂狂言とともに京の三大念仏狂言の一つで、国の重要無形民俗文化財に指定されています。鎌倉時代、円覚上人(えんがくしょうにん)が庶民に仏法を説いた融通念仏が起源で、1443年に大念仏狂言(無言劇)のかたちで整えられました。清凉寺境内の狂言堂において毎年4月と10月に定期公演が上演され、3月15日の春を告げる火祭り、お松明(たいまつ)では奉納狂言が行われます。

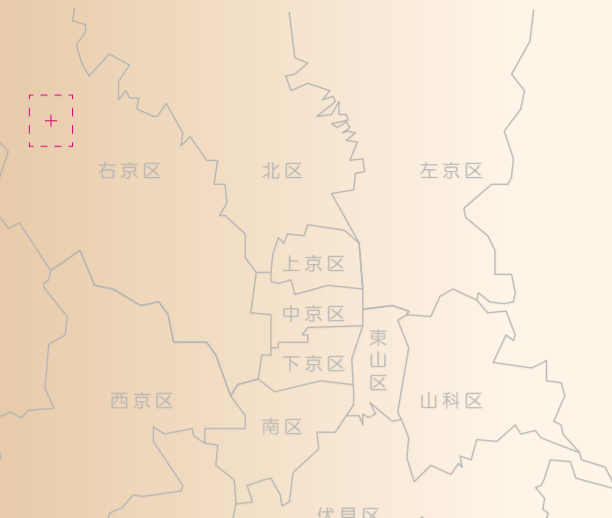
嵯峨野観光鉄道

トロッコ嵯峨駅からトロッコ亀岡駅までを保津川の溪谷に沿って走る観光列車です。

嵯峨小学校(招慶院旧址)



前身は「上嵯峨校」で、1872年に天龍寺塔頭の旧招慶院が校舎として用いられ創立されました。敷地内には招慶院の跡を示す石碑が建てられ、礎石が残っています。



～文化財と遺跡を歩く～

京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

愛宕道周辺の発掘調査

愛宕道は京都の西に位置する嵯峨清凉寺門前から北西にそびえる愛宕山山頂に鎮座する愛宕神社への参詣道として、古くから知られています。道沿いや周辺一帯は天龍寺や清凉寺など中世に寺院群が発展した地域です。室町時代中期に作られた『山城国嵯峨諸寺応永鈞命絵図(やましろこくさがしよじおうえいきんめいえず)』には天龍寺、清凉寺を中心に100を超える寺院が描かれています。2007年には、絵図に示された寺院群の範囲を中心に「嵯峨遺跡」という名称で、新たに寺院跡としての遺跡が加えられました。それ以降、発掘調査や試掘調査が行われ、寺院跡などの遺構が発見されています。また、平安時代からの葬送の地である化野(あだしの)では、化野念仏寺の北側で中世の墓や蔵骨器などが立会調査で発見されています。清凉寺境内では試掘調査が実施され、中世の井戸跡や土器などが見つかっています。また、愛宕山には山の北から東方にかけての山中に寺跡群が点在し、平安時代の土器も散在することが確認され、「愛宕山遺跡」として遺跡地図に登録されています。

4 あだしの 化野の墳墓

1993年に化野念仏寺の北側一帯で、公共下水道工事に伴う立会調査が行われ、道路下から小石室が見つかり、石室内からは金属製の蓋と陶器の壺が発見されました。壺内には火葬骨と炭が入っており、蔵骨器として使われていたことがわかりました。蔵骨器は高さ約20cmで、蓋を固定するための4個のひもを通す穴をもつ四耳壺(しじこ)とよばれる褐釉(かつゆう)陶器で、平安時代後期に中国の華南地方から輸入されたものでした。また、蓋上面には梵字の「𑖀」が描かれています。平安京の葬送地としての化野の実態を知る上で貴重な発見となりました。



蔵骨器として使われた褐釉四耳壺(京都市指定有形文化財)



金属製の蓋 蓮華座の上に「𑖀」が描かれている(京都市指定有形文化財)

1 せいりょうじ 清凉寺境内

『源氏物語』の主人公光源氏のモデルとして知られる源融(みなもとのとおる)の別荘・棲霞観(せいかかん)を後に棲霞寺としました。長和五年(1016)齋然(ちようねん)の死後、弟子盛算(せいさん)が棲霞寺の釈迦堂に、齋然が宋から持ち帰った釈迦如来立像を安置し、華嚴宗清凉寺としたことに始まります。その後、弘安二年(1279)には円覚上人が融通念仏による大念仏会を行い、浄土宗としての性格が強くなりました。大覚寺に残されている『清凉寺古地図』には中世から近世にかけての子院が本堂を中心に描かれています。2004年に境内西南の一角で試掘調査が行われ、室町時代の石組の井戸跡や土器等が発見され、古地図から「明王院」跡の遺構であることがわかりました。また、これまでに境内の北半で採取された、棲霞寺に墓かかれていたとみられる平安時代前期の軒瓦が本堂に展示されています。



調査風景 石組の井戸跡 (写真提供 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課)



境内から採取された軒瓦(清凉寺本堂)

5 あたごやま 愛宕山遺跡

平安京の乾(いぬい北西)の方角に位置する愛宕山(標高924m)は、古代から良(うしろら北東)の方角の鬼門にあたる比叡山とともに霊山として信仰され、寺社が山中に建立されて発展しました。「伊勢に七度、熊野に三度、愛宕さんへは月参り」とうたわれたところです。愛宕山遺跡は、愛宕山の北から東方にかけての山中に点在する寺跡群で、これまで6カ所の地点で痕跡が確認されています。いずれも斜面を造成した平坦地が残存し、平安時代の土器が散布しています。鎌倉時代に作られた神護寺に残された絵図には「雲心寺跡」と寺名を示したものもあり、寺の位置を推定することも可能になっています。また、山腹谷筋のわずかな平坦地には、現在も法灯を守り伝えている平安時代に建立された月輪寺が現存しています。山頂の参道両脇には、江戸時代末期まで存在していたとされる白雲寺宿坊跡の礎石群も残っています。



建物があったと思われる平坦地



平坦地に散在する石材

2 3 4 さが 嵯峨遺跡

鎌倉時代に亀山殿が築かれて以降、天龍寺、臨川寺(りんせんじ)、鹿王院(ろくおういん)などの禅宗寺院の建立、また清凉寺や二尊院などの発展に伴い南北朝から室町時代に建てられた子院などの寺院跡群の遺跡です。室町時代中期に作られた絵図には100を超える寺院が広範囲に描かれ、門前町が形成されていたことが窺えます。また、平安時代から葬送地としての化野も一部含まれています。

2 せんこうじ 千光寺跡

2008年に宅地造成に伴う発掘調査が実施され、室町時代の溝跡や多量の土師器皿が発見されました。調査地は絵図記載の「千光寺」跡で、愛宕道に面して南門が描かれ、調査地は寺域の北半に当たっていました。



試掘調査の様子



出土した多量の室町時代の土師器皿

(写真提供 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課)



白雲寺の宿坊跡(点在する石は建物の礎石とみられる)



山頂付近の磐座(いわくら)



月輪寺(山崖にある孤寺)

3 きようこんいん 香厳院跡 (史跡名勝嵐山)

2012年に宅地造成に伴う発掘調査が実施され、室町時代の仏堂とみられる建物跡や溝跡が発見されました。また溝跡近くでは延石(縁石)が見つかり、溝内からは軒瓦や土器などが出土しました。調査地は足利家の菩提寺とみられる「香厳院」跡とみられます。



発掘調査の様子



室町時代の仏堂とみられる建物跡 前面(右手)には瓦が多量に埋まっている



室町時代の延石(縁石)と溝跡



出土した軒丸瓦(室町時代)



出土した軒平瓦(室町時代)



資料提供: 財団法人京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

